



「大きな建造物を造りたかった」

磐越自動車道三川ICと安田ICの間。宝珠山トンネルの工事現場を、高鍋陽祥(ひよし)さん(27)はたびたび訪れ、現場確認を行います。「大きな建造物が造りたい」。NEXCO東日本に入社して5年目。仙台で、一番やりたかったという橋の建造に関わり、4カ月前に新潟に着任しました。「最近、トンネルも面白いと思うようになってきた」とか。「巨大な掘削機の先端を回しながら山を削っていくんですが、進むたびに硬さや土壌などが変わる。その都度、対応する方法を考えることが楽しいですね」

プロジェクトを俯瞰で見る。その先に完成というゴール

もう一つの面白さを「プロジェクトを俯瞰で見られること」と挙げる高鍋さん。全長600mの宝珠山トンネルも実際の四車線化等事業延長は8.3kmに及び、周囲やのり面の整備、道路の造設など付随する工事も多々あるため、全体から捉える視点が欠かせません。「環境保全もその一部。自然をできるだけ壊さないように、そして地域住民の要請にも応えられるように、一つ一つ組み立てていく。それは、やりがいにつながっています」。今回のトンネル工事、磐越自動車道4車線化を支え、地域に利便性をもたらすという目的を果たすための要、「常に大きな視点を持って臨み、きちんと終わらせたい」。高鍋さんの言葉には、力強さがありました。「一つの建造物を地域や自然とともに大きく見据える視点が、私たちの暮らしを未来へとつないでいきます」

「車線を増やすにはトンネルも必要。便利な生活には誰かの労力が伴っている、そんな当たり前のことに気付かされ、その大変さを目の当たりにしました」。ナビゲーター山脇さんのレポートは、Webで詳しく伝えます。



ぼくの体験記はWebで見てねー!



ナビゲーター  
いっすねー!山脇  
「よしもと新潟県住みます芸人」として2017年に新潟に移住。TV番組のレポーターを中心に活動。福岡県出身。Re:thinkインフラプロジェクトのナビゲーターとして県内のさまざまなインフラを見学。



第3回 | 街と未来をつなぐ

私たちは「Re:Think インフラプロジェクト つなごう!新潟の未来!」を応援します



株式会社曙建設 エヌシーイー株式会社 開発技建株式会社 株式会社笠原建設 株式会社キタック 一般社団法人建設コンサルタンツ協会北陸支部 株式会社中元組 特定非営利活動法人にいがた地域創造センター  
西田建設株式会社 藤木鉄工株式会社 一般社団法人北陸地域づくり協会 株式会社水倉組